

皆さんは「はだしのゲン」を知っていますか。中沢啓二が描いたこの本は、ヒロシマとナガサキに落とされた原子爆弾の恐ろしさと全てを奪われた原爆孤児の成長を描いた物語です。

主人公の中岡元は、元々は七人家族でしたが、兄の浩次は海軍へ志願し、もう一人の兄、昭は、疎開しに田舎へ行っていました。

そして、原爆が落とされた日に父親の大吉と姉の英子、弟の進次を亡くします。そんななか、母の君江は友子を産みます。

その後、元は死んだはずの進次にそっくりな隆太に出会います。その隆太は元たちにどのような影響をあたえるのか...

このように話の展開がどんどん変わっていくストーリーです。

原爆投下直後のヒロシマを描いた表現が取り上げられがちですが、戦争や貧困に負けず、麦の芽のようにたくましく生きていく少年たちのドラマに胸を打たれます。

図書委員 7年新井裕翔

